

大井沢伝統前句会 志田周子映画化記念大会の結果から

志田周子映画化を記念して特別大会が企画されました。全国各地から234名、491句の投句がありました。今回の前句付けでは、五・七・五・七・七の下の句を題句として出しており、前句（五・七・五）を付けて完成させるものです。今回の選者は、映画「いしゃ先生」の脚本を手がけるあべ美佳先生が務めました。各題ごとに地元こけし職人志田菊宏氏が製作したオリジナル「周子こけし」が贈られました。

【題句】 置き字「いしゃ先生」

- (い) 数知れぬ人々癒し色褪せた (いしゃ先生の往診かばん) 山形西高2年 佐藤希さん
- (し) 受付に今日は子栗鼠が顔を出す (自然あふれる大井沢村) 山形市 伊藤和恵さん
- (や) 白衣脱ぎ炉端に両手かざしつつ (やさしい笑顔いしゃ先生) 西川町 板坂牛歩さん
- (せ) 触診の手はやわらかく温かい (先生だいすき先生だいすき) 西川町 菅野耕廣さん
- (む) 急患の知らせに鞆斜に背負い (夢中になって自転車をこぐ) 西川町 板坂牛歩さん
- (せ) 患者待つ部屋と手そつと温めて (せいより高く雪の降る朝) 横須賀市 加藤ゆみ子さん
- (い) 無医村に希望の道を切り開く (いつも元気ないしゃ先生) 山形西高2年 樋口香澄さん

キャスト応募からエキストラ出演へ 睦合の柴田志げよさん

最初、このことに興味を持ったのは撮影のために出演者を募集していることを知ったことで、私もオーディションに参加してみたくなり、オーディションを受けました。オーディション当日は「あいべ」の三階の和室で衣装制作をされていて、その途中で呼ばれ控室に入ったら、5、6人の方がおられ酒田の方や秋田から来たという方もいらっしゃいました。いよいよ呼ばれてオーディション室の中に入ったら、監督さんはじめ映画関係者の方がおられ、自己紹介してから質問に答え、部屋に入る間に渡された短いセ



主演の平山あやさんとエキストラの方々 平山さんの後ろが柴田さん 左側は幸子役の上野優華さん

リフが書かれた紙を見て村人役を演じて終わりました。その後連絡が入り、山形市の文翔館での撮影のエキストラ出演でした。主役を引き立たせるため、大勢のエキストラと映画を撮るための会社の人などたくさんの人たちが一本の映画を作るために関わっているということに驚かされました。それにリハーサル、本番、リハーサル、本番と監督が納得いくまでの繰り返し、大変なんだと緊張しまくりで感じてきました。

次に参加したのは大井沢での撮影で、大井沢神社の奥にある稲荷様の前の石段での撮影でした。しかし雨上がりの日だったので石段は湿っていて、いしゃ先生役の平山あやさんが座る所にはビニールと布が敷かれてはいましたが湿気で大変でした。いしゃ先生が村の人たちと雑談をしている様子の撮影でした。一生に一度あるかないかの体験をさせていただき、映画ができあがるのがとてもとても楽しみです。